

病院等経営強化プラン・その5

衣川診療所

1 役割の明確化

衣川診療所は、同地域におけるへき地診療所であり、地域における一次医療施設として、また隣接する介護施設と共に地域包括ケアの拠点施設としての役割を担います。



2 機能及び体制

衣川地域唯一の医療機関として、地域住民に対して医療を提供します。

対面診療体制と訪問診療を両立させるため、モバイルクリニックによる遠隔診療と対面型訪問診療のハイブリッド型の検討を進め、通院困難な患者への診療体制を確保します。

へき地診療に関する公的な取り組みに積極的に参画し、へき地医療に関心のある医療者の中から衣川地域での医療に携わる人材の確保に努めます。

医療や健康増進に関する住民向け啓発活動に取り組み、自らの健康について関心を深めながら、より開かれた地域を目指します。

3 病床

当面は19床を維持しますが、社会状況の変化に応じた最適な病床数を継続して検討を進めます。

はるかなる台湾

衣川診療所医務技監 高橋 久行

海外旅行をしなくなってから、だいぶ月日がたちます。若いころは、西洋かぶれのところがあり、好んでヨーロッパ各地を訪れていました。しかし、回数を重ねるごとに、新鮮さが薄れ、理想とのギャップを感じるようになり、次第に興味を失っていききました。逆に日本の良さに目覚め、さらにアジア全域に興味の範囲がひろがっていききました。その中でも日本の「隣国」ともいえる台湾に強く惹かれるようになりました。それというのも私の祖父が台湾で生まれ育った『湾生』だからです。

私の曾祖父は台湾総督府の官吏で、銀行員として台湾各地を転々としていました。その関係で祖父は明治の末に高雄市で生まれ、台北市の小学校高学年

の時に宮城県に引き揚げてきました。曾祖父の方はその後も台湾で仕事を続け、人生のおよそ半分を台湾で過ごしました。中でも嘉義という町での生活が長かったようで、そこでの家族の暮らしぶりが伝わっているの、強いて言うならば、我が家にとって台湾における「故郷」は嘉義と言っていいかもしれません。祖父は台湾のことを率先して語ることはなく、私も子供のころは台湾に関心がなく、祖父が台湾出身であることすら意識していませんで



した。現在の嘉義市、戦時中、高校生が甲子園に出場

台湾といえば、沖縄のさらに南の熱帯の島というイメージで、暑さが苦手な北国志向の私にとっては、興味の対象外でした。しかし、実際の台湾は、全域が暑いわけではなく、場所によっては雪が降るなど地域差があり、四季もあるようです。周知のように台湾は親日的で、歴史的にも文化的にも多様性に富み、大変魅力的な地域です。台湾の良さを知った今となっては、祖父から台湾のことをいろいろ聞いておきたかったとつくづく思います。

数年前、家族が先祖の足跡をたずねて台湾を訪れました。私自身もいつかは台湾へと思っていましたが、まとまった休暇が取れない等の事情で行けそうにありません。自分の中では台湾が美化されていて、実際に行ったことで、そのイメージが崩れるのではないかという思いもあります。むしろ、書物や映像などを通して、理想の台湾を思い描いていたほうがいいのかもかもしれません。

実家近くの仙台空港から直行便が飛んでいて、4時間弱のフライトで行ける台湾ですが、私にとっては遥かかなたの憧れの地であり続けています。

大谷翔平選手の成績ボード (R6.8.25 現在)

打率 294④ 本塁打 41① 打点 94① 盗塁 40②
6.8.24 MLB 史上6人目 40本塁打 40盗塁達成

『SYOHEI ニュース』は市医師養成事業関係者の情報紙です。
令和6年8月26日発行 奥州市医療局医師確保推進室
〒023-0053 奥州市水沢大手町3-1 TEL0197-25-3833
市医療局HPにバックナンバーを掲載しています。 第53号

ちょうじゃがはらは いじあと 長者ヶ原廃寺跡

(国指定史跡)

奥州市衣川田中西

奥州遺産No.114 広報おうしゅう 令和2年3月号



1

1 北側上空から見た長者ヶ原廃寺跡。築地塀の中軸線を真つすぐ南に延ばすと、関山の頂上にぶつかる。長者ヶ原廃寺跡が寺院として機能していたころは、この山に「衣関」が置かれていた。本堂や南門に立つと真つ先に関山が目に入ったことだろう

2 真上から見た長者ヶ原廃寺跡。四角のうち、中央は本堂跡、左は塔跡と推定される建物跡、下は南門跡。周囲の点線は築地塀跡で、塀の外側には溝跡が巡っている

3 長者ヶ原廃寺跡から出土した11世紀初めごろの土器。長者ヶ原廃寺跡では遺物がほとんど出土しないが、まとめて穴に捨てられていた、これらの土器が偶然発見されたことにより、遺跡の年代が確定した



2



3



長者ヶ原廃寺跡は、^{かんざんちゅうそんじ}関山中尊寺から北に1ちほどいった、田園風景が広がる場所にある。

地元では、源義経を平泉に連れてきた商人「^{かねうりきちじ}金売吉次」の屋敷跡であると伝えられてきた。

しかし昭和24年からの考古学的な調査により、^{ついでい}築地塀と本堂、塔と推定される建物、南門を備えた10世紀後半から11世紀の寺院跡であることが明らかになっている。

一体どんな寺院だったのだろうか。寺院の中軸線は、中尊寺がある関山山頂に向かっており、造営当初から関山を意識して設計されたことがうかがえる。長者ヶ原廃寺跡が機能していた当時の関山には「^{ころものせき}衣関」という関所が置かれていたことから、長者ヶ原廃寺跡は「衣関」に關係する寺院とも考えられる。

南北境界の地であった「衣関」の跡地には、後に^{ふじわらきよひら}藤原清衡が、浄土・平泉の基点として中尊寺を建立する。長者ヶ原廃寺跡は、中尊寺が関山に置かれた意味を今に語り継いでいるのかもしれない。

